

運営委員会の模様

日時 2018年8月18日 13:30~17時
場所 大阪国労会館 出席者 19名

①入退者 新入会者2名、退会者1名を承認し、現会員数280名となる。

②会計 今回今年度事業の文学散歩、詩画展、詩話会の会計報告をした。一部の取り組みでは、本会計からの支出もあり、次年度繰越金の減額の可能性がある。各事業の中身の充実のための財政支出と、できるだけ各事業内での財政的収支が整うよう工夫をしていくこととした。

③国際交流 翻訳詩集「言葉の花火」現在参加者は62名。担当者より参加費未納の方に連絡中。翻訳作業状況は、既に第一次翻訳は完了し、今、翻訳者合同会議の段階である。11月総会では出版記念会を予定している。

④詩のイベント 2018年9月15日(土)ドーンセンターで開催予定。参加予定者は65名。朝日、毎日、日経などのマスコミ、及び、「大阪市保育園長あて」にちらし配布を行っている。目標参加者100名に向けて、協会の内外の人に引き続き呼びかけを行うことにした。

⑤詩画展 参加者は今年29名(昨年度は32名)。感想文や見学者との会話を通して、詩画展への関心や期待の高さを感じた。感想文も含め、カラー作品集が完成したので、会報と一緒に送付する。年々会場使用や経費についての厳しさはあるが、様々な工夫をしながら、取り組んでいくことになった。

⑥第25回総会 総会の内容、段取り、役割分担を行った。会内外の多くの参加を促すために、カラーのちらしを作製中。「会の発展のためにどのような取り組みがいいか、お聞かせ下さい」というアンケートを総会参加確認はがきで行う。会員の意見を、募集し集約することにした。

⑦来年度関西詩人協会25周年記念行事の内容について次回運営会議で論議する予定。(文責 北村真)

詩話会の報告

担当 釣部与志

関西詩人協会は、大阪市中央図書館で開催される「詩画展」と連携して、大阪市西区民センターで「詩話会」を開催しました。例年通りの会合にするか、少し冒険の実験をするか運営委員の間で話し合いました。永井事務局長の発案に賛同して、前向きに取り組むと言うことで「会員が作る詩話会」を企画しました。一年では、良好な結果を期待できませんが、複数年挑戦することで、会員の「新しい発表の場」が増えるかと信じています。会員の多彩な才能を引き出し、詩(Poem)・絵(Picture)・写真(Photo)の頭文字をとって、「3Pの融合と展開」を掲げ、自らが新しい波動を起こそうと目論んでいました。定刻の二時になり、北村運営委員の司会で始まりました左子代表の開会の挨拶でなごやかに進み、年四回会員や各地の詩人たちに送っている会報に反応があった報告がありました。北海道の高名の詩人から、英訳詩集「言葉の花火」に参加したいと云う申し出であり、会員が対象である旨を告げて断わると、さっそく関西詩人協会に入会の申し込みがあり、運営委員会も承認しました。地域に限定せず、幅広く包容する姿勢も頼もしく、他に類を見ない英訳詩集という企画も素晴らしいものだと自讃しています。

二部として、「火垂るの墓」の朗読を前に、永井ますみさんから、作家野坂昭如氏の生立ちや文学的評価の解説がありました。アニメで有名な「火垂るの墓」の時代背景や舞台の現実を理解する上で大いに参考になりました。そして市原礼子さん・青木春菜さん・田島廣子さん・松原さおりさん・司茜さんによる朗読がありました。終戦前後の混乱期に、辛うじて生命をつないだ兄妹の哀れと、女声の繊細な表現が相まって「ほろり」としました。その後、野坂昭如氏を偲んで、松原さおりさんの指揮のもと、全員で「黒の舟歌」を合唱しました。

三部として、詩画展や数年来の作品を会場前面のスクリーンに投影しました。会員自身が語るという今年度の目玉企画でした。岸本嘉名男さんの「さくらにつ

いて」・斎藤明典さんの「ひとのあとをゆく」・田島廣子さんの「詩画展と試行錯誤」名古きよえさんの「絵を描く時の心がけ」・中尾彰秀さんの「じーん」・原圭治さんの「原発・福島は今」を語られました。それぞれが日ごろ思っている、創作活動を熱く語り、各自の詩作品を理解するうえで参考になりました。

第四部として、自作詩朗読があり、秋野光子さん・斎藤明典さん・田島廣子さん・名古きよえさん・藤谷恵一郎さん・釣部与志が自作品を朗読しました。釣部は、企画提案ソフト(パワーポイント)を使い新しい表現方法の一つに挑戦しました。

最後に永井事務局長が締めくくりの挨拶をして、無事に終了しました。本年は新しい企画であり、まだまだ改善の余地もあると思います。会員の皆さまの意見も取り入れたいと考えています。事務局まで意見をお寄せ下さい。

多忙にもかかわらず参加された仲間たちです。青木春菜・秋野光子・市原礼子・岩井洋・大倉元・加納由将・岸本嘉名男・北村真・斎藤明典・榎次郎・嵯峨京子・左子真由美・園田恵美子・田島廣子・田村照視・司茜・釣部与志・永井ますみ・中尾彰秀・名古きよえ・西喜久子・ハラキン・原圭治・藤谷恵一郎・松村信人・松原さおり・村野由樹・山下俊子・吉田定一(以上敬称省略)

ホームページ報告

《会員の詩》三篇(8月1日~10月31日)掲載
青江江里「最後の授業」・方草子「なあ お袋」・境節「つながらる」

《会員の活動》「文学散歩・火垂るの墓を歩く」報告／アラホール・図書館・公民館 共催事業「童謡「きらきら星」の詩人・武鹿悦子さんを迎えて 童謡誕生100年と「サツちゃん」の世界」案内(文責 松村信人)

住所変更

TAMAKO 〒779-1116 徳島県阿南市那賀川小延239 笠原光子方

退会者 須賀千鶴子

会員の活動

左子真由美氏 8月11日、京都音楽サークル協議会「夏の創作教室」において講師。

井上良子氏・6月24日くずはアートギャラリー愛しの植物画展にてギャラリートークコンサート 井上良子作詩歌の贈り物「白いばら」はじめ10曲を演奏会。

二科展に初出品初入選しました。9月5日から17日に新国立美術館。後、関西での巡回展もあります。

呉屋比呂志氏・8月25日に京都の「おおたや」で詩集『守礼の邦から』の出版会祝賀会を京都詩人会議主宰で開催。関西詩人協会会員も多数集まった。

名古屋よえ氏 日本画個展 五月一五日から二〇日まで。京都市寺町三条ヤマシタ2画廊にて。／「北桑時報」二八一号にエッセイ集『とこしえ』より三篇を掲載。／まほろば飛鳥芸術展に「茶話し」30号が「まほろば芸術賞」を受賞。／七月五日に京都芸術センターの総会に出席。

原圭治氏 七月二二日まで開かれた第15回美ヶ原詩人祭(信州)に出展した詩画作品「忘れて欲しくないから」が松本市教育長賞を受賞した。

安森ソノ子氏 七月一日、現代日本文芸作家大賞を受賞。東京の美術の杜出版(株)等の推挙を受けていた。

第二五回世界詩人会議報告

安森ソノ子

三十四年前から文学の世界大会に参加してきた。国際ペン世界大会、アジア詩人会議、世界詩人会議等で知友人と共に多岐にわたる日々を忘れ得ない。

今夏はバンコクで行われた第二五回世界詩人会議に参加、英語のみでの進行の中で気分はかなり若い頃に戻っていた。

会議の初日には参加者全員がほぼ揃うため、開会式の後、着席している一人ずつが紹介された。午前中に各方の国からの参加者は英語表現での自作詩を力強く朗読、午後には長命な文学者や教授による詩を柱にした基調講演があった。「我々は詩を通じて世界の人々との友愛の精神をもち、人類共通の願いである平和を希求する」という理念のもと、深い思いからの発表が

くり広げられるのであった。

初日の午後に依頼があり、私は日本の舞踊をもすることになった。出演の前夜同じ曲を二十五回ほど部屋で静かに流し、自作の詩による曲で舞う事を復習、曲の内容は英語で記し、全員に分かつてもらえる様に準備をした。

北米の六十年間の活動歴のあるダンスカンパニーと心をつなげた行動、競演の熱気、忘れ得ない創作舞踊の盛り上がりは今思い出しても楽しくなる。着物は五枚持つて行き、三枚を役立てた。舞踊で使った傘は清々しい色彩であった。

「地球温暖化」と第する自作詩、身近に感じ京都で繙いている「源氏物語」と紫式部に関する小講演と詩剣舞を土台とした「弁慶と牛若丸」と題する急にバンコクで書いたドラマ等で計六回の出演となった。初対面の方々と世界の多くの詩人から賞賛の言葉をいただき恐縮の至りである。以前からの日本側の努力の結果バンコクの博物館や大バザール行き、象に乗った時間、鰐と人間のシヨウ見学で暑中の街へも出た。

京都新聞八月二日の朝刊で、安森ソノ子が今回の世界詩人会議に参加した旨が報道されている。

《会員の今後の予定》

詩の実作講座

9月22日(土) 第437回 午後6時〜9時

「吉永小百合の第二楽章」から 寺沢京子

10月27日(土) 第438回 午後6時〜9時

吉野弘詩集『北入曾』を中心に 吉田定一

11月24日(土) 第439回 午後6時〜9時

実作 その場で題を決めて詩をつくりま

12月22日(土) 第440回 午後6時〜9時

モダニズム詩 尾崎まこと

永井ますみ 10月6日(土) 羽衣公民館で「万葉集に

生きる父・大伴旅人と子・大伴家持」と題して筑前琵琶と詩朗読の会を開催する。参加費無料。申込みは羽

衣公民館(072-265-3227) 問合せは永井

(090-4289-8225)でもOK。

朗読文化の会あいは毎月二回練習会をしています。いつからでも参加可能です(問合せは田村照視へ075-314-6449)

10月3日 銀河詩のいえ

10月9日 新大阪ココプラザ

11月7日 銀河詩のいえ

11月13日 新大阪ココプラザ

12月5日 銀河詩のいえ

12月11日 新大阪ココプラザ

詩を朗読する詩人の会「風」毎月第3日曜日、南森町

ギャラリーMAGにて(問合せは中尾彰秀へ073

422-7248) 10月21日 ゲスト リヴィエー

ルの仲間たち

11月はお休み。12月15日 金川宏さん

ふれあいの祭典 詩のフェスタひょうご2018

主催 詩のフェスタ実行委員会・兵庫県・公益財団法人芸術文化協会・兵庫県現代詩協会

第1部 講演 伊藤比呂美 演題【カタる、ウタう、

ノロウ】

第2部 対談 伊藤比呂美×平田俊子 テーマ【詩を

生きるということ】

第3部 自作詩朗読会 10月14日(日) 13時より

ラッセホール サンフラワー(神戸市中央区中山手通

4の10の8) 入場無料

申込み・問い合わせ 兵庫県現代詩協会事務局 神田さよ

西宮市段上町6の14の40798(53) 0686

「JUNPA秋の交流会」を行います。

日時・10月28日(日) 13:00-16:00

会場・ロイヤルパークホテル京都三条 地階 会議室

「サン・ルーチェ」

参加費・2000円(珈琲または紅茶つき)

一般参加歓迎します。定員は50名です。俳句のコーナ

ーもあります。参加者が朗読するオープンマイクもあり

ます。事前申込をお願いします。メールは editors@

ana-fashi.com すみくらまりこ迄

注・今回は英語朗読はありません。

《会員の詩書》(紹介文・山田兼士)

津坂治男『野村蛙手』(私家版)

八十年代半ばになった詩人が、1年前に亡くなった妻を思い出し思いやりながら、季節の推移を眺めつつ送る日々を綴った。表題にもなっている「ノムラカエデ」に亡妻の生まれ変わりを幻視する姿は切実だ。老いた身をユーモラスに描く余裕も作品に魅力と明るさを与えている。

名古きよえ『命の帆』(土曜美術社出版販売)

1935年生まれの詩人が、親から子へ、そして孫へと引き継いでいく命のリレーを「命の帆」と命名した。幼年期を過ごした戦時中の従兄たち(戦死した)の思い出、自らの出産、子育て、そして孫の誕生と生長と、命の現場を見守り続けた女性の切実な祈りだ。

佐相憲一『もり』(滯標)

1968年生まれの詩人による第6詩集は全17篇。短めのもので長めのものがあるが、特に長い作品に力作がそろっている。自然、世界、歴史といった大きな主題と、身近な感覚や意識といった小さなモチーフが深部で結び合っているのが特徴。長編「樹海の蜘蛛」は独創的な秀作。

佐相憲一 小説『痛みの音階癒しの色あい』コールサック社

藤谷恵一郎詩集『明日への小鳥』(現代日本詩人選100 No.1)(竹林館)

1947年生まれの著者による第4詩集は43篇。比較的平易な言葉で綴られた形而上的作品群。生と死を凝視し自然界と人間の諸現象を描き出す言葉は決して難解にならず、それでいて深い洞察を含んでいる。時折挿入されるアフォリズム的短詩も鋭くかつ軽やかだ。

永井ますみ詩集『万葉創詩——いや重げ吉事』(竹林館)

万葉集からの引用を軸とする43篇。タイトル「創詩」が示すように、和歌との対話による創作詩篇である。

特に後半は大伴家持(永井によれば万葉集の作者)の一生を辿る歌物語のようにも読まれ作者の思い入れが伝わる。現在に蘇る万葉人の抒情が美しい。

永井ますみエッセイ集『永井ますみの万葉かたり——古代プロガー家持の夢』(竹林館)

犬飼愛生『ストロークマーク』(モノクローム・プロジェクト)

1978年生まれの詩人による11年ぶりの第3詩集。子育てを主要モチーフに現場報告とその省察(時にアイロニカルな)が繰り広げられるが、その合間には現代生活を乗り切っていく大胆かつ繊細な女性の心象が描かれる。特異な子育て詩集。

北原千代エッセイ集『須賀敦子さんへ贈る花束』(思潮社)

北原千代『水の二重奏』(JUNPA BOOKS) あたるしましろうご中島省吾『入所待ち』(滯標)

(以下は著者からのメッセージ)「カッコよくジャンニーズ時代を活かして新刊が出ました」単独著作「入所待ち」が日本点字図書館から点字図書に選ばれました。栃木県にはいつも感謝しております(栃木県視聴覚センター出版)



『鉄の二重奏』 武西良和 共著(JUNPA BOOKS)
『波の二重奏』 加納由将 共著(JUNPA BOOKS)
『ダンテ・マッフィア千句集——永遠』 すみくらまりこ 訳 村田辰夫監訳(7月1日上巻、8月1日中下巻) 日本国際詩人協会

《会員発行の詩誌》

- 百円詩集 2号 熊井三郎
- K A I G A 108号 原口健次
- S o l i s c e 24号 岩井洋
- P O 170 左子真由美
- 異郷45号 村上久雄

- カルテット5号 山田兼士
- 銀河詩手帖289・290号 近藤摩耶
- サイプレス21号 岸田裕史個人誌
- 軸128号 原圭治
- 樹音75号 森ちぶく
- 新燎原27号 小林尹夫
- 放課後9号 西きくこ
- ぴーぐる40号 松村信人
- 三重詩人243号 伊藤眞司
- リヴィエール 159号 横田英子

《団体の会報・図書》

- 青い鳥ペンクラブ機関紙「青い鳥」70号
- 秋田県現代詩協会会報58号
- いしかわ詩人46号
- いしかわ詩人11集 アンソロジー
- 石川詩人会 かなざわ現代詩コンクールチラシ
- 茨城県詩人協会会報26号
- 大分県詩人協会 会報No.152
- 大分県詩人連盟 いちご通信21号
- 岡山県詩人協会だより 23号
- 岩手詩人クラブ会報 62号
- 岐阜県詩人協会会報11号
- 群馬詩人クラブ会報 306号
- 詩界通信83号 日本詩人クラブ
- 静岡の詩 第134号
- 栃木県現代詩年鑑(平成30年度) 栃木県現代詩人会
- 中日詩人会会報192・193号
- 徳島県現代詩人会二〇一八年刊詩集
- 日本現代詩人会報151号 日本現代詩人会
- 広島県詩集 アンソロジー
- 福井県詩人懇話会会報98号
- 宮城県詩人会会報27号
- 兵庫県現代詩協会会報43号
- 北海道詩人145号